

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471502363		
法人名	医療法人社団 ひがしの会		
事業所名	グループホームえんじゅ		
所在地	広島県福山市多治米町5丁目16番12号		
自己評価作成日	平成24年9月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	、平成24年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様お一人おひとりに合わせた生活環境の提供、生きがいやりの生活リハビリに力を入れている。</li> <li>・嚥下状態に合わせた食事摂取のアプローチをしている。</li> <li>・毎月新聞を作成し、お手紙として写真を添えてご家族様にお送りし、日々のご様子をお伝えしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近くに小学校があり、子供たちの声や登下校する姿を見る事が出来、元気をもらえる様な環境の中にある。デイサービスが併設され、昼食はプロの料理人が作られ、常に旬の素材でバランスのとれた食事が提供され、食の楽しみが味わえる。ケアについても人と人のぬくもりと笑顔と真心の支援に努め、個を大切に、その地で安心して過ごせる環境づくりと家族との連携を図るホーム便りを定期的に発行し日々の暮らしを細やかに伝え安心してもらう様取り組まれている。法人全体の研修も実施しケアの質の向上に努め、安心安全な暮らしが保たれる様務めている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	中途採用者研修や、各MT時等に私達スタッフが取り組むべき事として話を共有している。	各ユニットに掲示し、朝礼時や夕礼時に職員で読み上げ意識統一を図り日々の支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には地域に出向いて行き参加し、また 小学校の生徒・中学校の生徒たちは施設へ来てもらう。	町内会に加入し地域行事への参加や近くの畑に出向くとき挨拶を交わしたり、学区夏祭り等に参加したり、事業所の記念行事に子供たちや地域の方の参加があり日々交流を深めている。小学生が楽器演奏しに来てくれる事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することでどのような施設なのかご理解頂けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等での話し合いの場は設けているが、定期的に開催できていない。	今年度は管理者の異動があり2ヶ月に1回の開催はできていないが、家族、民生委員(4名)、地域包括支援センター等の参加の下、現状報告やアンケートの報告等を行い質疑応答の場を持ち意見をもらいサービス向上に活かしている。	地域の支援を得るためにも、定期的開催し、行政をはじめ、各分野の多くの方に参加依頼をし幅広く意見を得ながら協力者として関わってもらえるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判断等で迷った場合は、福山市の介護保険課に確認し法令遵守に努めている。	困難事例が起きた場合や疑問点等を相談しアドバイスや情報提供を受け連携を取るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に規定を載せており、玄関にも掲示しているので各スタッフが理解している。	身体拘束をしないと言う事を文章化し、玄関に掲示され全職員に周知し見守りを中心にしたケアに努めている。玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。今後は研修も定期的に行う予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、学ぶ機会を作れていないので、今後機会を設ける必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の部分については、これから勉強会を開催し、取り組むべき課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に必ず説明を行い、不安や不満がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半期に一度アンケートを行い、全家族様の意見を集約してサービス向上に努めている。	訪問時や金銭報告をする際、お便りを添え、意見や要望など聞くようにしている。アンケートも取り、結果を職員で検討し、まとめた物を家族に配布すると共にサービスの向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各MT等で機会を設け、事前にアンケートを行いMTに反映させている。	職員アンケートを取り、集計し、合同ミーティングで検討され、運営に反映するよう取り組んでいる。個人面談も2ヶ月に1回行い思いを聞き取るようにしている。日々意見や提案を気軽に言える様な雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを作成し、個々の目標達成に向けて取り組んでいる。2か月に一回は管理者との面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や他の研修にも参加できる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自施設での勉強会に他事業所のスタッフ等を招いて開催する勉強会等の企画を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント表を作成するうえで、ご本人様の要望等を聞かせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント表を作成するうえで、ご家族様の要望等を聞かせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居され、施設の環境に馴染めない方もおられるので、十分に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来ることは尊重し、過剰介護にならないように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、一か月のご様子を手紙にて報告させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪される馴染の方へは過ごしやすいよう環境を用意している。	友人が訪問される事もあり、ゆっくりと気軽に話が出来る雰囲気づくりに努めている。以前住まれていた場所までドライブしたり、誕生日にはお墓参りに出かける事もあり、馴染みの人や場所との関係が継続出来る様支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格を把握し、尊重し合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様の知りたい情報等を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で本人様の意向を確認し、カンファレンス、MTにて話し合い反映させている。	日々の関わりの中や入浴時、1対1の対応なので話題も多く色々な話の中から汲み取ることが出来、可能な限り思いに対応するようにしている。困難な場合は表情や生活歴、家族の協力を得て検討し支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表作成時やご家族様面会時、日常会話の中から情報得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々コミュニケーションを取っていく中で状態把握に努め、カンファレンス、MTにて話し合いに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度カンファレンスを行いご本人様に合わせた介護計画を作成している。可能であればご家族様にも参加していただいている。	定期的にモニタリングを行い、カンファレンスに家族も参加してもらい、意見や要望を反映させると共に職員からの課題点やニーズ等について話し合い、一人ひとりに合わせた介護計画を作成し、家族の承諾も得ている。見直しも定期でされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや話した内容や対応等を記録に記入し、MTやカンファレンスにて情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法令遵守の中で、出来ることは取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様のADLに合わせて出来ることを増やして頂くアプローチを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を確認し、病院を受診している。	利用者や家族の納得のもと、主に事業所の協力医がかかりつけ医となっており、月2回の往診が行われている。他科などの受診は家族対応となっており、受診結果については、家族、事業所、双方ともに連絡を密にとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、病状の早期発見早期治療に繋がるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院等との連携を十分に取り、早期退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアが必要となった場合は、ご家族様、医師、訪問看護、事業所スタッフでのカンファレンスを開き、終末に向けて話し合いを行っている。	利用者の状態の変化などを家族に知らせ、その都度話し合っている。家族にもカンファレンスに参加してもらい、医師を含め、訪問看護師、職員等で話し合い方針を共有しながらチームで支援に取り組んでいる。指針の作成やターミナルケアの研修もされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	6月に普通救命講習を行い、心肺蘇生法や止血法、AEDの使い方について講習を受ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防訓練、避難訓練、通報訓練、消火訓練を行うとともに、夜間想定での避難訓練も行っている。	年2回、消防訓練をしている。夜間想定で行ったこともあり、職員で共有し周知して取り組んでいる。	さまざまな災害を想定し、運営推進会議等で災害対策を議題とし、それぞれの立場の参加者の意見を聴取すると共に協力をお願いをされ、協力体制強化に繋げる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の方を尊重し、丁寧な声掛けをさせていただいている。	利用者の尊厳を大切に、プライバシーに配慮した声かけやさりげない言葉かけを行っている。職員間で注意しながら対応に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを尊重し、ご本人様のペースに合わせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様に合わせ、活躍の場を提供し、やりがい生きがいづくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には十分注意し、朝の更衣時にご自分で決めていただくよう声掛けをさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様のADLに合わせて出来ることをしていただいている。	昼食はプロの料理人が作られ、食材も多くバランスの取れた献立で食欲を誘う盛り付けとなっている。また、身体状況に応じた形態で支援されている。配膳のお手伝いもされている。時には利用者の好みも聞き楽しみの食事となる様務めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様に合わせた食事形態や量で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの習慣を把握し、それによってリズムをつけている。	利用者の排泄パターンを把握し、日中は一人ひとりに合わせた時間でトイレ誘導をしている。夜間は状況に応じた対応をしている。出来るだけ習慣を活かし機能維持のためにも、トイレでの排泄に心掛けるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供を行い、便秘時の対応は主治医と連携を図り対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様のタイミングで声掛けし、気持ちよく入浴していただけるよう心掛けている。	入浴は基本午後から週2～3回となっており、出来る限り要望には柔軟に対応している。拒否の方には家族の協力や声かけの工夫などを行い、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のペースに合わせて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何重にもチェックを行い、服薬ミスがないよう努めている。薬の変更があれば全職員が確認し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を十分に活かし、ご本人様の生きがいに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、秋は気候がいい為、ご家族様協力のもと、全体での外出を計画、実施している。希望があれば個別に外出を実施している。	季節ごとの外出(お花見・バラ公園)や天気の良い時には散歩に出かけている。又、一人ひとりの誕生日には希望を聞き、要望に添った外出計画を立て、思い思いの場所へ出向き楽しんでもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の中には、お金がないと不安になる方もおられるので、ご家族様とも相談させていただき、所持することで安心感の工夫を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話は、ご家族様協力のもと実施しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、季節に合わせた飾り付けを行い、季節感を味わっていただけるよう工夫している。	共用のリビングには、畳のスペースがあり、季節に合わせた飾り付けがなされ、壁には利用者の写真や作品が飾られ、明るく、嫌な匂いもなく、窓から小学校が見え子供たちの元気な声が聞こえ、家庭的な雰囲気の共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様お一人おひとりに合った環境を提供しつつ、お客様同士馴染の関係を作れるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた自宅のものを持ってきて来られ、使用されている方もおられます。	使い慣れた家具や家族との思い出の写真等が飾られ、自宅に近い状態を保たれた居室で穏やかに過ごしてもらうような配慮をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様が出来ることは自立して出来るよう支援しています。		